

第2回渡嘉敷村観光振興計画策定委員会並びに
第5回渡嘉敷村観光振興計画策定準備委員会
質疑応答 議事録

【実施日時】2017年11月8日(水) 18:00-20:00

【開催場所】渡嘉敷村役場(大会議室)

【出席者】委員(敬称略)

<策定委員会>

大城良孝(策定委員会委員長)、新里敏明、三田井裕、新垣徹、稲盛清昭、
宮平鉄一郎(代理:西本卓臣)、金城健一、座間味秀勝、新垣聡、新里武広、
金城満、島村清、神谷和幸

<策定準備委員会>

小嶺哲雄(策定準備委員会委員長)、金城悦男、水澤豊子、中馬直樹(代理:
田中守)、国吉晴大、吉崎誠、金城肇、金城涉、池松来、花咲宏基
事務局(敬称略)

渡嘉敷村):玉城広喜、内野珠子

ライ):草間亜沙子、黒岩考自、山岸彩夏、本盛聡、諸崎そよか

石川):石川武男(コーディネーター)

JTB):池原和也 計 32名

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

皆さんこんばんは。予定時間が来ましたので始めます。本日は渡嘉敷村観光振興計画の作成にあたり、策定委員会のメンバーと策定準備委員会のメンバーが、一堂に会しての会議となっています。夕方18時からということでお忙しい時間帯ではありますが、みなさんのご参加をいただき、心より感謝申し上げます。会議に入る前に、策定委員会委員長の大城委員長のほうから、一言ご挨拶をいただきます。

大城良孝 策定委員会委員長)

あらためまして、みなさんこんばんは。本当に忙しい中、ご参加ありがとうございます。渡嘉敷村観光振興計画策定委員会は第2回目、準備委員会のみなさんは過去4回会合を開いていただいて、今日が5回目の会合です。お互いに村の振興発展のために協議をしながら前向きな姿勢で計画を作っていこうということで、準備委員会の皆さまが議論していることを、策定委員会のメンバーもしっかりと聞いて計画を作っていきます。今日は合同の会議となっています。それぞれが、いろいろな意見を出して欲しい。また、事務局からの説明にも耳を傾け、検討していただけたらと思います。約1時間半から2時間くらいの時

間かと思いますが、よろしくお願いいたします。

小嶺哲雄（準備委員会委員長）

ありがとうございました。それでは、議事を進めていきます。委員長から紹介がありましたが、準備委員会は、4回の会合を開催しています。3回目までの議事録は策定委員会の皆さんにも配布をされています。今日は第4回の議事録を配布していますが、策定委員会のメンバーの皆さんには、議事録の配布によって、随時、報告していましたが、今回は、策定委員会の皆さんと、準備委員会の皆さんは、一堂に会しては、初めての会合になります。島の各職場の代表の皆さんなので、各委員の紹介は省き、ネームプレートを配置しているので、確認いただきたい。それでは、議事を進めていきます。

当初、策定委員会の皆さんには、第1回の会合で、素案ができた時に報告の機会を持つという話をしました。その中で、必要があれば、中間報告という会を持つという話をしました。それで、今回、中間報告という形をとりました。これまで、準備委員会が協議したこと、決定したことを含めて事務局から中間報告ということで、今日は、まず、策定委員会の皆さんに報告します。

お手元に配布している議事次第の中で、2番の「これまでの経緯」、3番の「理念案および体系図案の内容説明」は、中間報告です。

それでは、事務局のほうから中間報告ということで、これまでの経緯の説明をお願いします。

石川）

ライヴスのコーディネーターをしている石川です。初めての方もいらっしゃると思いますが、今日は議事進行と皆さんのサポートをさせていただきます。

プロジェクターでは、1、2、3、4と、「本日の内容」と記させていただいています。皆さんのお手元の資料と同じ内容で、少しだけ付け加えています。4番のその他のところでは、今後のスケジュールのことも共有させていただくような時間となっています。時間は1時間半から2時間。20時まで。まずは、ライヴスの黒岩から、中間報告という形で、今まで準備委員会でお話をしてきたものを、皆さんに共有・報告します。その後、議論が足りなかったこともあり、準備委員会の皆さんから、アイデア・提案・懸念事項の意見をもらい、最後に、策定委員会の皆さんにも意見をいただくような形で今日は進めていきたい。

ライヴス黒岩）

皆さんこんにちは。株式会社ライヴスの黒岩です。私の方からは、まず、これまでの経緯と理念の案と体系の説明をさせていただきます。まず、これまでの経緯について、説明をさせていただきます。観光振興計画ということで、策定準備委員会で、現在、進めているのが、基本の理念、スローガン、基本方針、基本施策の作成です。そして、その施策に基

づいた具体的な取り組みの作成です。そして、スケジュールと役割分担の明確化を進めています。現在、策定準備委員会では、理念から具体的な取り組みについて、4回の会議で検討を進めて来ました。その内容について、私から簡単に説明します。これまでの経緯ですが、6月に策定委員会を開催しました。その際、委嘱状の交付や現状把握、そして、スケジュール等を共有しました。策定準備委員会は、これまで4回開催しました。6月に第1回の策定準備委員会を行い、委嘱状の交付と現状把握、ビジョンの検討をワークショップで行いました。7月に第2回目の会を開催し、今後の進め方について議論しました。8月の第3回目の会は、あらためて理念の設定ということで、皆さんから意見をいただきながら進めました。9月は、事業者さんの繁忙期なので、弊社で事業者さんを回らせていただき、ヒアリングを通して、具体的な取り組みであるとか、施策の方向性であるとか、アイデアを集めました。その作業を経て、体系を取りまとめ、10月に、体系の確認とそれに伴う取り組み内容の検討を行いました。その検討を経た準備委員会で検討した理念案と体系図の案を説明します。資料を配布します。

<策定委員会、策定準備委員会メンバーに資料を配布>

ライヴス黒岩)

まず、はじめに、基本理念を説明します。

基本理念ということで、渡嘉敷村が目指す観光の姿を準備委員会で数回に分けて検討を進めました。前回の策定準備委員会では、特にいろいろな意見が出ました。スローガンについても、さまざまな意見が出ました。弊社の方で、「世界にひとつしかない里島 とかしき」を案として提案しましたが、委員の皆さんから、いろいろな違った意見が出ました。例えば、「とかしきの言葉を入れたい」、「わかりやすい言葉を入れたい」、「未来に向けて自然を守るというようなメッセージをこめたい」、「リピートしてほしいというようなメッセージをこめたい」とか。そして、観光客へのメッセージでもあり、住民へのメッセージにもなるようなものにしたという意見もいただきました。

そして、最終的に、この4つに絞られました。

- A. 心ふるえる夢島 とかしき～この碧を100年先へ結ぐ～
- B. 心ふるえる夢島 とかしき～この碧を結ぐ100年先へ～
- C. 心ふるえる夢島 とかしき～この碧を未来へ～
- D. とかしき 心ふるえる夢島～この碧を100年先へ結ぐ～

この4つで、準備委員会で投票を行った結果、Aが、一番の得票を得て、準備委員会では、「心ふるえる夢島 とかしき～この碧を100年先へ結ぐ～」を理念に設定することとしました。そして、「心ふるえる夢島 とかしき～この碧を100年先へ結ぐ～」だけでは、全てを

伝えきれないということで、補足説明文章のサブ理念を考えたので提案したいと思います。
これは、前回の準備委員会の会議で検討した流れを踏まえて、再設定したもので、皆さん
で、議論をいただきたい。

<配布資料 朗読>

とかしきが有する豊かな地域資源、
碧く輝く海、緑溢れる山、
先人たちが歩んだ歴史、受け継がれてきた文化。
それらには、人の心をゆさぶり、
心がふるえるような「魅力」があります。

そして、それらが今もなお残っているのは、
これまで歴史を紡いできた島民、また、今の島民に
「やさしさ」があったからと言えます。

そのやさしい心を、もっとみんなで共有し、
一緒になって島を守って活かしていくことで、
100年先も自然資源が残っているような
未来を創り、
子供たちに結いでいきます。

やさしさがあることで、
豊かな自然環境は守られます。
これまでの歴史は受け入れられます。
島民に寛容な心とゆとりが生まれます。
訪れる人は居心地の良さを感じられます。

とかしきは、
自然を守り活かす場所。
一度訪れた人が何度でも来たくなる楽しみが溢れる場所。
誰もが大切に想い、心が満たされ愛着がわく夢のような場所。
そんな「心ふるえる夢島」であり続けます。

以上が、サブの理念。
次ぎに基本的な方針ということでビジョンを設定しているので、お手元の A3 の数ページに

分かれている資料で説明します。

まず、基本方針は、皆さんからいろんな取り組みであるとか、意見をいただいて、5つの柱の項目で分類した。まず1つ目は、「自然環境保全・活用」。2つ目は、「観光客受け入れ体制観光客受け入れ体制」。3つ目は、「観光メニュー」。4つ目は、「地域ブランディング」。最後、5つ目は、「誘客プロモーション」。それでは、中身について説明します。まず、基本施策および具体的な取り組みについて。まず、事業者のヒアリングであるとか、各課のヒアリングを通して出てきた意見を、4つの視点から具体的な取り組みに整理しました。まず、1つ目が、村内の観光に係る各課の取り組み予定内容というものを落とし込みました。そして、2つ目は、渡嘉敷村の総合計画・上位計画に記載されている内容をピックアップしました。そして、3つ目が、観光関連事業者の要望の内容を追加しました。最後に、4つ目が、その他、弊社のほうで観光を推進するにあたって必要な項目を挙げました。こちらの4つの視点から具体的な取り組みを取りまとめ、それぞれの基本施策に落とし込みました。まず、1つ目の「自然環境保全・活用」に関しては、1番目の青の部分になります。「自然にやさしく、自然との共生を目指した環境づくり」という方針を掲げました。具体的には、「自然にやさしい島づくりの推進」、「エコツーリズムの推進」の2つの軸で設定しました。まず1つ目の「自然にやさしい島づくりの推進」については、「渡嘉敷村の自然環境保全に向けた美化活動を行うとともに、家庭内から出たゴミの分別を徹底して、自然環境に配慮した取組みを進めます」。具体的には、「美化運動の実施」。そして、「廃棄物の削減に向けた取組み」。そして、「自然環境保全に向けた取組み」、「自然環境への関心を高めるための取組み」と設定しました。現在説明しているところが1-1ですが、赤字と黒字がありますが、赤字が前回の準備委員会で皆さんに意見をいただいて、修正を加えた部分。黒字は、前回の準備委員会で提案したものと同一内容で設定しています。そして、2つ目の「エコツーリズムの推進」は、基本施策は、「渡嘉敷村の最大の魅力である豊かな自然環境を守るため、自然体験を通じた環境への理解と、観光ルールの周知・徹底による自然との共生を目指した取組みを進めます」としました。具体的な取り組み内容は、「自然体験の場の提供」「観光客向けの観光ルールの周知徹底」の2つの項目を掲げました。前回の準備委員会で、自然環境保全に関する意見が多く出たのを踏まえ、具体的な取り組み内容が2つの項目だったのを、「もう少し増やしてほしい」という意見を受けて、今回、追加しました。ただし、この計画は、観光振興計画なので、自然環境保全に比重をおきすぎないように、環境への配慮は必要な部分は抑えて、観光を強調するように設定しました。

基本方針の2つ目の「観光客受け入れ体制」は、オレンジの部分で説明します。まず、1つ目の基本施策は、「観光客受け入れ体制の整備」。「外国人も含めた渡嘉敷村に訪れる様々な観光客に対して、丁寧で満足度の高い受け入れ体制を整備します。」としました。具体的な取り組み内容は、ここも、準備委員会の皆さんから多くの意見をいただきました。具体的には、1つ目は、「観光協会の設立と観光ガイドの育成」。2つ目は、「外国人観光客への案内対応サポート支援」。3つ目は、「外国語対応人材の採用」。4つ目は、「飲食店連携に向

けた取組み」。5つ目は、「働く人材不足の解消に向けた取組み」、最後、6つ目が、「渡嘉敷村でのサービス整備状況の事前周知活動」とし、6項目の設定をしました。次に、2-2ですが、「利用環境向上に向けた基盤整備の充実」としました。「離島ならではのWIFI環境の不安定さを極力減らすとともに、初めて来島した観光客を的確に案内できるような案内標識等の設置や、既存施設の維持管理を進め、快適な観光が行える基盤整備の充実を図っていきます。」と設定しました。2-2の具体的な取り組み内容は、1つ目は、「船内WIFI環境の整備」、2つ目は、「WIFI環境の整備」。こちらは、島内ですね。3つ目は、「案内標識の整備検討」。4つ目は、「交通標識の整備検討」。最後、5つ目が「既存の観光・交流施設の維持管理の推進」と設定しました。基本施策の3つ目は、「各種予約システムの構築」としました。内容は、「渡嘉敷村への来島の際の最初の窓口となる船舶の予約サイトの改善と、宿泊・飲食店の予約サイト構築により、利便性の向上を目指します。」。具体的な取り組み内容は、1つ目は、「船舶の予約サイトの改善」、2つ目は、「宿泊施設や飲食店の予約サイトの構築」で2つの項目を設定しました。基本施策の4つ目は、「交通網の充実」。内容説明は、「島への移動、島間の移動が円滑に行え、かつ、島内を楽しんで巡り、周遊できる交通網を充実していきます。」。具体的な取り組み内容は、「船の大型化、増便の整備」、「慶良間諸島をつなぐ航路「みつしま」の充実」、「島内周遊バスの運用」の3つの項目で設定しました。基本施策の5つ目ですが、「避難対策の整備」としました。内容説明は、「地元住民だけでなく、観光客に対してもわかりやすく、安全に避難が行えるように案内板の設置やマニュアル作成等の避難対策を整えます。」。具体的な取り組み内容は、「避難場所の案内板の設置」、「避難時の対応マニュアルの作成・配布」、「阿波連地区の雨除け避難場所の整備検討」の3つも項目に設定しました。

基本方針の3つ目の「観光メニュー」は、グリーンの部分で説明します。基本施策の内容は、「渡嘉敷村の有する自然や歴史文化、人を最大限に活用した年間通して楽しめる観光メニューを創出していきます。」としました。具体的な取り組み内容は、「一次産業と連携した体験メニューの創出」、「観光イベントの継続開催、及び新規の企画検討」、「観光ルートづくりの推進」で進めることとしました。

基本方針の4つ目の、「地域ブランディング」は、ブルーの部分で説明します。基本施策の1つ目は、「渡嘉敷村としてのブランディング」。内容説明は、「地域特産なお土産の開発や、観光客へのマナー・ルールの周知・徹底を行うとともに、渡嘉敷村の個性が発揮され、価値を高めるための適切なブランディングを行っていきます。」と設定しました。具体的な取り組み内容は、「お土産の開発」、「観光マナーの周知・徹底に向けた取組み」、「遊泳ルール等の周知・徹底に向けた取組み」、「地域ブランディングの構築に向けた取組み」としました。2つ目は、「慶良間諸島全体としてのブランディング」とし、内容説明は、「座間味村との連携を図り、慶良間諸島全体として共通のブランディングの方向性を定めていきます。」としました。最後の基本方針は、「誘客プロモーション」。島の魅力を効果的に伝え、人を呼び込むプロモーションの展開となります。基本施策の1つ目は、「情報発信の充実」。

内容説明は、「渡嘉敷村の現状や魅力をリアルタイムで発信していきながら、観光客の呼び込みを進めます。」。具体的な取り組み内容は、「村HPの改訂」、「SNSを活用した定期的な情報発信」、「デジタルサイネージの設置」と設定しました。2つ目が、「誘客プロモーション活動の推進」。内容説明は、「現在活動している修学旅行生の誘客を継続的に推進するとともに、旅行博等のイベントへの参加も積極的に進めながら、誘客に向けた活動を推進していきます。」。具体的な取り組み内容は、「修学旅行の誘客」、「県外誘客イベントへの参加」、「パンフレットやポスターの作成・配布」と設定しました。最後の基本施策は、「交流活動の推進」。内容説明は、「他自治体との交流機会の創出を検討するとともに、渡嘉敷村内の観光事業者や一次産業事業者等の異業種交流連携を推進します。」としました。具体的な取り組み内容は、「他自治体との交流機会創出の検討」、「(アジアユース人材育成事業の実施)」、「異業種間等の交流推進」と設定しました。

次に、プロジェクト推進管理ということで最後のページとなるが、前回の策定準備委員会で、「この計画をどのように進捗管理するのか」という意見がありましたので、プロジェクト推進管理ということで追加しました。プロジェクト管理は、「本計画の取組みの実施について、進行状況並びに効果についての検証を行い、中間報告と最終報告を行います。」具体的には、「本計画の取組みの効果を上げるために、PDCA) マネジメントサイクルで、計画の進行状況を管理し、効果を検証します。」と設定しました。

以上が、簡単に駆け足ですが、これまで、準備委員会で検討してきた内容です。この案を元に皆さんから意見をいただき、よりよいものにしていきたい。

石川)

準備委員会の中で、たくさんの議論を重ねた中で、準備委員会委員長との話も踏まえて、全部を準備委員会で固めて、それを策定委員会に出すよりも、途中で情報共有をしながら、より多くの意見を取り入れて作っていかうと。今日は時間があと1時間半程いただいています。なるべく多くの方に意見を述べてもらって、この準備委員会で作ってきたベースを見ながら、「こういうことはどうなんだ」「この部分はどうなんだ」というような意見をいただきたいです。あと、数字が入っていないので、その前の段階で皆さんがどう思っているかというのも策定委員会のメンバーにも、最後に、話を聞きしたい。

まず、今、情報を皆さんにお渡したので、読み込む時間を、5分程設けます。その後、準備委員会でも前回議論が足りなかったかもしれないので、準備委員会のメンバーから話してもらい、次に、策定委員にもお話を聞きたい。中身の質問とか、こういうのは入れた方がいいのではないかな。こういうのを入れるとこういう懸念があるから、こういう解決策の方がいいのではというようなことを話してもらいたいと思います。それでは、今から5分程、読み込みの時間とします。

< 5分経過 >

石川)

これから、皆さんから引き続き提案・感想をいただきます。先ほど準備委員会からとしたが、まず中間報告を聞いていただいているので、策定委員会のメンバーから感想、意見を発言していただきたい。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

策定委員会委員長。中間報告の中身について感想なりをお願いします。

大城良孝 策定委員会委員長)

感想としては、非常に細かく目配りがされていると感じました。ただ、その中で気になるのは、言葉使いで、交通網の充実のところに、「船の大型化・増便」について、「高速船の増便については、できる限り早く就航を目指す」と書いてありますが、これはどういうことをいいたいのでしょうか。「高速船の増便については、できるだけ早く就航を目指します。」と。高速船を新しいのに作り変えるという意味ではないですね。この言い方は。

ライヴス黒岩)

はい、そうですね。

大城良孝 策定委員会委員長)

増便とは夏が3便なのは知っているが、増便というのは4便になるのですか。

ライヴス黒岩)

イメージとしては、島に入れる人数を増やすという意味合いのことを、こういう形で表現しました。船舶課のヒアリングの中で、増やしていくという話がありました。そのヒアリング内容を、こちらに載せました。こちらの資料の中で、説明をさせていただきたいのですが、一番右の方、取り組み要素の横の方に提案者の記載がありますが、記載されている課や団体等へのヒアリングを通して出てきた意見としてこちらを載せています。船の大型化、増便の整備ということで、船舶課でこういった意見があったので入れました。

石川)

前回の議論の中では、増便をするという方向の話というよりは、増便の是非をしっかりと見極めなくてはいけないという話がでてきました。「増便をしよう」という話よりは、どういうニーズがあって、最適な人数はどうかという話なのだが、この文言では増便はどうするのかという視点で書いています。

島村清 策定委員)

副村長がおっしゃったように、僕も同じところの意味が分かりません。今、質問しようかと思っていました。結局、地域の要望があって、われわれ船舶課は、今、新しい船の計画をしているのですが、やはり別の人の意見を聞くと島のキャパのことが問題となります。要望があれば増便にも対応しますよという意味での増便です。船を作りかえるときには、夏場の「乗れない」という苦情に対応しないといけません。そういう意見もあるのです。「客が乗れないよ」と「島の人が乗れないよ」と。そういうことがあったり、これからの施設や港の問題を含めて検討しながら、進めていく。快適さとか、修学旅行対応の貨物を積めるようにするにも、それ以上のさらなる大型化はできないので、その延長線上にあるのが増便ですよというヒアリングで話をした内容だと思います。これを見て、わからなかったもので、同じことを聞こうと思っていました。

ライヴス黒岩)

はい。一緒にしてしまっただ。

島村清 策定委員)

内容としては、今、言った内容です。ただ、村のキャパがどれくらいなのかというのは、われわれのサイドではつかめません。一方は「増やせ増やせ」、一方は「増やさないほうがいい」という形のものもどんどん出てくるので。「村の将来をどうするのか」、「人数的なものをどうするのか」ということを議論すれば、自ずと、輸送の体系ができてくると思うので、そういう議論が進んで、村全体で共通の認識があればやりやすいとは思いますが。一方から「増やせ」、一方から「現状維持」と言われると、ごちゃごちゃになってしまいます。なかなかこうした対応はできないのかなというのが、船舶課の意見です。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

今、委員長が言われたのは、高速船に関する文言がわかりづらいということ。増便を臨機応変に対応するという意味で、就航という言葉ではありません。そこをどう修正することではないでしょうか。今、課長が言われたように、ニーズがあれば増便ということであれば、そういう言葉に変えるのかということだと思います。

ライヴス黒岩)

文言の問題ですね。

島村清 策定委員)

内容としては、さっきも言ったように、要望があれば増便にも対応しているという形のヒアリングだったと思います。それと、委員の中から、新しい船を作るときには、修学旅行

対応とかいう意見も出てきました。じゃあ、可能な限りの定員の増加は検討しようということで委員会の中でもまとまりましたので、そういう形のヒアリングでした。

ライヴス黒岩)
それを踏まえて。

島村清 策定委員)
この記入の仕方は少しわかりにくいので、さっきも言ったように変更したほうがいいです。そこは質問しようと思っていました。

石川)
大城委員長、いかがでしょうか。

大城良孝 策定委員会委員長)
よろしいです。

石川)
じゃあ、神里委員お願いします。

神里敏明 策定委員)
基本理念については、ぱっと見た感じではこれはこうしたほうがいいという感じはありません。計画の体系図で気になっているものがあります。「観光客受け入れ体制」に、阿波連地区の雨よけ避難場所の整備検討とあります。阿波連地区に観光客が突然の雨も回避できるような避難場所の整備を検討しますとあるけれども、ご承知のとおり阿波連集落は大変混み合った地域で、旅行村の広場や管理棟を含めた整備はあるが、集落内にそういったものを作るのは大変厳しい。それをこの中に載せるのはどうかと思います。そして、この避難と、上の1・2の避難、防災的なものですね。それとは意味が違うと感じます。

石川)
分けたほうが良いですか。

神里敏明 策定委員)
そうした方が良いでしょう。それから、5番目の誘客プロモーション。5-3。交流活動の推進の中の②で、アジア人材育成事業の実施ということで、これはヒアリングで出たものだと思いますが、すでに進行している事業です。あえて計画に入れる必要があるのかと思います。

ライヴス黒岩)

もう進んでいるという。

神里敏明 策定委員)

そうですね。あえて入れる必要があるのかなと。一括交付金事業を活用しているものなので、予算的なものも今後継続していくかどうかというのが見えません。計画に向けて費用が確保できないため事業を取りやめる可能性も十分ある事業です。計画には載せない方が良いと思います。

ライヴス黒岩)

はい。わかりました。

石川)

神里委員、あとはいかがですか。ありがとうございます。

それでは、三田井委員。

三田井裕 策定委員)

私、1枚目で止まっています。

メインの「この碧100年先へ」の後の“結”は、なんて読むんですか？

ライヴス黒岩)

つむぐと読みます。

三田井裕 策定委員)

どういう意味ですか？

ライヴス黒岩)

つむいでいく。つむぐと読むのですが、これは、準備委員会の皆さんから意見が出まして、つないでいくというこちらでよく使われる言葉だとの議論がありまして、この言葉がいいんじゃないかということで出た意見です。

三田井裕 策定委員)

つなぐじゃなくて？

石川)

つなぐより、つむぐと読んだ方が良いと。

ライヴス黒岩)
あえてしています。

三田井裕 策定委員)
私はわからなかったの。

石川)
読みが？

三田井裕 策定委員)
たぶん、つむぐと思ってはいたんですが、まったく意味がわからなかったの、どうなのだろうというのが1つ。

石川)
ひとつ。はい。それでしたらつなぐの方がいい。

三田井裕 策定委員)
その方が素直だなと。

石川)
素直。はい。ほかにはいかがですか。

三田井裕 策定委員)
サブの方の1段落。ごめんなさい。学校の先生なので、理屈っぽくて。1段目の3行目。心を揺さぶりとあって、次の行が「心がふるえる」と。流れからすると、「ふるわせる」という文章になるのかなと。

石川)
ふるわせる。

ライヴス黒岩)
心をふるわせるという感じ。

石川)
人の心を揺さぶり、心ふるわせるようなという表現のほうが。

三田井裕 策定委員)

そのほうが流れとしては素直かなと。

次に、3段落目の最後。「子供たちにつないでいきます」

これは先ほど説明があったので、文の意味は理解できますけども、何をつないでいくのか。何をいっているのかわかりません。

ライヴス黒岩)

自然のブルーです。

三田井裕 策定委員)

この文章からは読めないです。

ライヴス黒岩)

そこの部分も追加して。

三田井裕 策定委員)

何かあったほうがわかりやすいかと。

石川)

体系図のほうはよろしいですかね。

三田井裕 策定委員)

そこまでいっていない (笑)

石川)

ありがとうございました。それでは、新垣徹さん、お願いします。

新垣徹 策定委員)

まず、基本理念の案を見たのですが、「夢島」というキーワードはすごく良いと思います。実は、商工会が十何年前かに、「花とくじらまつり」というイベントをやっていて、そのときに渡嘉敷村のイメージコンテストをやりました。そのときに採用されたのが、「夢島」という曲です。今、慶良間太鼓とか、フラのメンバーが使っています。歌詞の内容がまさしく渡嘉敷をイメージしたものです。歌詞の中では、ひらがなの「ゆめしま」なので、その差はありますが。文言に関しては、三田井さんが指摘していましたが、つなぐの文言は、違和感があります。サブに関しては、もう少し文章を短くして良いと思います。説明文が

多すぎて、読む側は疲れます。せっかくいいキャッチフレーズを出しているのに、あまりにも説明文が長すぎると思います。もし言葉を、はしょるとすると、もう少し簡素化して、ストレートに入ってくる形のほうが良い。子どもや県内外の方々とか、いろんな人が見る文章なので。そういった方々の最大公約数をしっかりつかんだ文言を配置して欲しい。それから、体系図に関しては、これだけ多岐にわたっている内容があり、これだけ関係部署の方が集まっておりますので、私は商工会の責任者をしていますが、例えば、観光協会とか人材不足の解消とか、われわれ事業者にかかわる宿泊施設や飲食店サイトの構築とありますが、例をひとつ挙げて観光協会の設立に関していうと、たとえばその主団体である商工会であったり、商工観光課だったり、経済建設課だったり、総務課だったり、事業によって違うが、各団体の中で一回もんでもらうのはどうでしょうか。結局、準備委員会の皆さんが、一生懸命がんばって、いくらいい意見を出してもらっても、「予算が取れません」の一言で終わってしまうことの無いように。各団体の中でももんで、この場所に持ってこなくてはいけないのではないかと思います。私のところは、商工会なので、民間の集まりだから特にそれを感じます。私としては、今日、まず持ち帰って、理事会なりにうまくこう資料を見せながら、会として意見を集約しながら持って来ようと思いますが、他の部署、各団体の方もそういった形のをすると、もっとスムーズに話が進んでいくのではないかなと思います。

石川)

次に、宮平さんお願いします。

宮平鉄一郎（代理：西本卓臣） 策定委員）

宮平の代理で出席しております。

石川)

代理の方ですね。よろしくお願いします。

宮平鉄一郎（代理：西本卓臣） 策定委員）

今日初めての参加で、これが良いとか悪いとかはちょっと。

石川)

それでは、感想を。

宮平鉄一郎（代理：西本卓臣） 策定委員）

特にはないです。あのこれを見ても、やっぱり大切だなと思うことが多くあります。これに向けてしっかり実現できればいいなと思います。

石川)

ありがとうございました。では、金城さん。

金城健一 策定委員)

準備委員会の皆さんがすごくよくまとめていただいて。大変苦勞されたと思っております。私の方からは、これというのは見つかっておりません。皆さん、ご苦勞様でした。

石川)

ありがとうございます。それでは、稲盛さん。

稲盛清昭 策定委員)

私としては全体としてよくできていると思うし、何回も会合を重ねているだけのことはあります。しいて言う、私は、那覇で観光事業に10年くらいかかわったことがあります。その経験からすると、これが全部実施できれば、素晴らしい。ただ、観光について考えると、しいていえば、本当の目的はリピーターをいかにつくるかということに集約されると思います。そう考えると、観光は地域を知ることと、人を知ること。これで実はリピーターができます。地域を知るといのは、自然とか、あるいは歴史とか。それから人を知るといのは、文字通り、暮らしを知るとか、人と交流をするということになります。それには、観光関係のここにいるメンバー、観光関係の人だけで、どんなにがんばってもそれは無理です。住民にこういうことをどうやって周知し、理解してもらって、それを共有するかというのが一番大事。ちょっと、趣旨から、はずれましたが、以上です。

石川)

ありがとうございます。次に、新垣聡さん。

新垣聡 策定委員)

私もほとんど同じような意見です。この第4回の議事録も、ざっと、読みましたが、皆さん、いろいろな意見を活発に出していただいて、ここまで作りあげてきていることが分かりました。

ただ、5ヵ年間でこれをすべてクリアできるかという、疑問が出て来ます。先程の稲盛区長のお話のとおり、委員会のメンバーの議論がどれだけ住民、島民の方に伝わるのか。温度差ができてしまうと、なかなかこれを実現まではいかないのかなと思います。これからつくられて、住民のみなさん、観光事業者のみなさんに伝えていく部分はどうしたらいいのかという課題もあります。

石川)

ありがとうございます。それでは、新里武広さん。

新里武広 策定委員)

だいたい皆さんと同じ意見です。今回、村民に調査をし、村民から上がって来た意見で、これを考えたと思います。対策は、上がっていますが、稲盛さんも先程言われたとおり、村民にどれだけ反映されていくのかなというのに、少し疑問が出てきます。あとこの計画、ぱっと見たところ、5つ基本方針がありますが、渡嘉敷が、一番大事にしていけないといけない自然環境保全について、若干弱いと感じます。もろもろは事業所側の収益等にかかわるのですが、収益が大事ではありますが、それともなって自然の環境がどんどん崩れていっては意味がないのかなと感じました。もう少し慎重にやってもらわなければと。感覚的にだが。自然環境保全についてはもっとやれること、あるいはやるべきことがあるのではないかと思います。

石川) はい。あらためまして島村さん。

島村清 策定委員)

先程、私の意見は言いましたが、また疑問が生まれました。皆さんがおっしゃられていたとおり地域のこの計画が、地域の意見がどれだけ入っているか、あるいはどれだけ浸透させられるかということで、船の受け入れキャパとなると思います。日帰りなのか宿泊なのかを含めて、やっぱり地域全体でそのキャパシティを考えて、それにあった体系図を考えていかなければならないと思います。そこで意見が合わないと、横から「増やせ」「減らせ」となると、また、ごたごたしますので、そこらへんは意見を集約して、この計画の中に、渡嘉敷の将来の入域者数の人数的なものを決めて、自然環境保護も含めていくんだというのが決まって、それを渡嘉敷全体に浸透させ、共有していければ、おのずと輸送の問題も解決していくと思います。輸送の時間を変えたり、便数とかそういうのも調整していけばいいわけです。極端に減らすとかはできないとは思いますが、その中で今ある船舶の中で、地域の需要にあったような体制が作れればと思います。そのためにも、地域の皆さん、事業者を含め、村議も含め、島の未来絵図を作れればと思う。受け入れるお客様も含めてです。それを大前提にしてもいいと思います。

石川)

ありがとうございます。それでは、金城満さん、お願いします。

金城満 策定委員)

この計画をざっと読むと、策定準備委員の皆さんがすごくご苦労されて、この段階で、素

晴らしい意見が反映されているなど素直に思います。その中で、私は民生課の委員になりますので、計画の体系図の①の「美化運動の実施」についてお話します。ボランティアとかのビーチ海中のごみ拾いを掲げているが、実施している中で、「ゼロのつく日」というものがあり、美化清掃を村民の皆さんに協力してもらってやっています。村民一人ひとりが参加することが大切で、今後、環境美化というのを、村民、地元ボランティアの村民含めて網羅していくというふうに考えています。その中で環境美化の機能、形のものを入れたらどうかと思っています。それから、4番ですが、これは策定準備委員会の皆さんが提案された、渡嘉敷の周辺海域の水質についてということが書かれてありますが、実際、南部保健所の方から、民生課を通してですけれども、各離島・地域ごとに、水質のサンプリング調査を実施しています。渡嘉敷村では、阿波連ビーチ周辺の調査があり、当然のことながら、阿波連地域は最高水準です。県の環境保健の方には、観光白書等冊子があります。それにすべてのビーチが載っています。これは参考程度だが、その中に、渡嘉敷村の海域があります。海域とはどこを指しているのかという問題はあると思いますが、ビーチを中心に国立公園に指定されています。何ポイントかしばって調査をするのかなと思います。全部とは言えませんが、その中でビーチがいいのか、離れたところがいいのか。そこを具体的に決められたらいいと思います。

観光客の受け入れについて少し気になっているのが、観光客を修学旅行も含めて誘客しますという中で、受け入れの宿についてが気になります。経営者が高齢化してお辞めになる施設が出て来ています。団体としての受け入れがしっかりしないと、せっかく誘客プロモーションしても厳しい部分が出てくる。そこを含めて、何か、いい方法がないかと思いません。具体的には、すぐに出てこないが、その辺の課題をクリアできないか。あと、観光客受け入れ体制の中で、4番の飲食店連携というのがありますが、村全体ですぐにでも考えないといけません。観光客が増えていますが、ご飯を食べるところがないとの声が出て来ています。この計画の中では短期から長期までビジョンを作るようですが、この部分は早急に対策を打つべきだと思います。ちょっと話が少し違う方向に行きました。あとは、計画全体のことで、どうしてもこれだけの計画をすると、村全体の計画との整合性が必要になります。その中で、短期から長期まで計画を立てた時に、どうしても整備をする中で財政を伴うため、その中ですべてやるのは厳しい部分があるので、計画としてはビジョンを持ちその中で動いていくべきで、要の部分を含めて皆さん考えていただいて、それから優先順位をつけていただく。計画は計画として、すべてこの計画を否定するものではありません。ただ実行するためには財源が伴いますので、その財源というのは村民からいただいた税金ということになりますので、村民の納得が必要です。この計画を施設の整備などのハード的なものからソフト的なものを含めて皆で考えながらやっていけたらいいと思います。

石川)

ありがとうございます。続いて、神谷さん、お願いします。

神谷和幸 策定委員)

はい。私の方は少し立場が違ふところで発言します。JTB で、チャーター船を今回運航させていただいて、7月21日から8月31日までで、総客人数が約4,000名でした。前年比176%となりました。今回、船の欠航も少なく、少し船を大型化したということで集客させていただいたということで、受け入れの部分では、皆様に感謝申し上げます。観光面から申し上げますと、われわれ旅行社側からすると、この島の魅力というのは、那覇から30分でまったく別世界のところにこられるというところです。やはり県内の中でも、なかなか魅力的な場所。もちろん、先程あった自然環境保護とか、地域の魅力というのはこの観光でいろいろな開発をうまく計画的にやっていかないと、突然崩れて気づいたら資源がなくなってしまうというところも知っていますし、今、日本全国で一番大きく問題になっているのは、観光公害、観光ストレス、地域住民の方との摩擦です。いろいろな観光地で深刻になっています。渡嘉敷村が、観光客を受け入れるということ自体を、事業の柱として、基本理念、基本計画として、考えていかなければなりません。その中で、いいなと思うのは、この碧を100年先に「つむぐ」なのか「つなぐ」なのかは、議論の余地が必要ですが、やっぱりここを残して、この自然を守りながら、リピーターを増やしていくところが大変良いと思います。あと、計画の細かいところの内容の具体的取り組みについては、少し重っている部分があります。外国人観光客の対応で、外国人対応の人材採用とか。そこを少し整理した方がいいと思います。もう1つは、情報発信の充実というところに誘客プロモーションがありますが、その中で、HPの改善とかSNSという部分。今、ほとんど皆さんが何で情報を仕入れるかといえば、スマートフォン。旅行については、デスクトップとかノート型パソコンの2倍です。基本的にはスマートフォンで見ます。スマートフォンで見ることを前提に、HPの改修をした方がいいと思います。付け加えると、われわれも今、会社全体として勉強中ではあるのですが、デジタルマーケティングが必要で、Googleとかそういったところのものを活用して、たとえば、動画をいろんな人に、世界中のどういう人に届けたいとか。その下にありますが、パンフレットとかポスターとか言うのはもちろん大事で作るのもいいですが、今の世界の流れからすると、各観光協会とか国のところでは、もう一切こういったパンフをつくらない。デジタルの中で、スマートフォンとかそういったところで、見せていく。実際に、その部分できちんとお金をかけてどういったところにデジタルの広告を打つのかというところを行っていくことが大切ではないかと思います。そういった部分を入れたほうがいいのかと思います。

最後に、この計画を作り上げて、住民の皆さんと一緒に、われわれ送る側の旅行社としても、一緒に理念を守って送客をしていきたい。

石川)

ありがとうございます。それでは、座間味さん。

座間味秀勝 策定委員)

この事業そのものは、具体的な実施計画を策定するということにあると思います。実施計画となると、これ、全部すべてを来年やる必要はないでしょう。優先順位付けを検討していかないといけないと思います。

石川)

大城委員長、よろしいですか。

大城良孝 策定委員会委員長)

あとで。

石川)

それでは、ここからは、準備委員会の方から。お願いします。

金城悦男 準備委員)

4回の準備委員会が開催されたとのことですが、私は今回初めてでして、内容についてまだ完全に把握はしていないのですが、先程、商工会長からもありましたが、組織としてわれわれがどのようにこの計画にかかわっていくことができるのかということを検討しないといけないと思っています。今現在は、私は、この計画についての意見はまとまっていません。申し訳ございません。

石川)

それでは、水澤さん、お願いします。

水澤豊子 準備委員)

交流の家の職員として、もう一回この計画を見直してみた時に、私どもの施設として持っているスポーツ施設だとか、会議や研修ができる施設ですとかをもっと活用できないかと。環境省、MICE などと取り組んで行こうとしていることもあると思いますし。先程、課題にあった宿泊ということに関しては、私どもの宿泊施設はまだまだたくさん受け入れられるキャパがあります。それから、機能として平和学習、環境教育といったようなところで、交流の家の施設自体、また、教育施設としての機能がうまくこの計画の中に入りきれていないかなと思っています。現在の体系図では、「エコツーリズムの推進」の中の自然体験の場の提供というところだけに限定されているかと思うのですが、何かもう少し、うちの施設の活用について入れられないかなと感じています。交流の家は、村の事業者との共存というところも大切にしていますので、そこの共存を大切にしながら、もっと村の観光に貢

献するという。言い方をかえると、村の観光と同時にもっと交流の家も活用していただくというようなことがもう少しこの中に入れられないかなと今日、あらためて思いました。

石川)

ありがとうございます。それでは、池松さん、お願いします。

池松来 準備委員)

体系図の1番「自然環境保全・活用」という部分が若干薄いのではないかというのが、前回、この場で話し合われていて。その点について少し考えたのですが、1-1とか1-2とかありますけど、できれば1-3というのをつくって、「環境保全・基準・目標を設定する」という項目を作って欲しい。それについての内容説明としては、「今まで渡嘉敷村では、客観的な視点での環境保全基準がなかった。今後積極的に目標を設定し、達成に向けさまざまな方法で実践する」というような感じで取り組む。さらにそれを1と2にわけて、「環境保全に関する取り組みに一定の基準を設け、常に評価検討する」。取り組みの説明としては、「専門家の視点を分類し、海上水域の現状把握を行う。そして明確な目標設定を行う。2つ目にわけた部分で、「新しい技術や知識を取り入れ環境に対して負荷を減らす」という。説明文としては、「観光地であり、住民の生活の場でもある渡嘉敷村は、常に環境に対して負荷をかける立場にあります。観光振興を進めながら、その負荷をいかに増やさないかという課題に取り組めます」というのを考えました。今1-1の③のところルールを設定しとか、環境保全に向けた取り組みというのがありますけど、④もそうですけど。

ライヴス黒岩)

ブラッシュアップをしてということですね。

池松来 準備委員)

この基準を設けるところと、基準を守っていくために何をするかというところは、別項目にした方がいいと思います。それから、「観光客の受け入れ体制」2-1-①のところ「観光協会の設立と観光ガイドの育成」がありますが、これも分けた方がいいと思います。観光協会設立ということと、観光ガイドを育成して増やしていくということが必ずしもその中に含まれるものではなく、別々に考えた方がいいのではないと思います。あとは、地域ブランディングのところ。4-1-②と③。これについては、これがブランディングのところに入るものなのかと。

ライヴス黒岩)

町にいろんな方が歩く中で、裸の人が外を練り歩くというのは、地域の全体としての雰囲気、景観としてイメージが悪いという意味合いを持って、こちらにあえて入れた。

池松来 準備委員)

快適に過ごせる場所ですよということがひとつのブランドになりますよということか。

ライヴス黒岩)

はいそうです。

池松来 準備委員)

あとはエコツーリズム。たぶん、田中さんもあとで話してくれると思うのですが、渡嘉敷とか慶良間というエコツーリズムは、エコツーリズム推進協会というのがありますが、国で、環境省で定められているらしい。そのことを考えると、この言葉が、ここにあることに疑問があります。

ライヴス黒岩)

わかりました。修正します。

池松来 準備委員)

もう一度考えていただければと。

石川)

ありがとうございます。それでは、国吉さん、お願いします。

国吉晴大 準備委員)

私は、今年度、初めて参加させていただきまして、感想ですが、今後も、時々参加させていただきたいと思います。

開催の中で、過去の資料を読む機会があり、いろいろな方々の今までの取り組み、報告、計画案を見てきました。

そこで、先程も話があったが、優先順位も含めて、取り組んでいくという村の意向も分からなくはないですけども、環境省のビジターセンターが、取り組まれる方向性もあるという事の中で、我々、準備委員会のメンバーが取り組んできているという事も、飛躍的に促進しながら取り組んでいただけたらと切実に思います。

もう1つ、今年度の件でいうならば、ビーチにおけるルール規制等について、各地域の事業所全体的に声をかけて話し合う機会を作って欲しい。それを役場に担って欲しい。その機会によって、渡嘉敷村民および事業所等に渡嘉敷村の行動計画、方針、方向性をより一層早く伝えることができると思います。

石川)

ありがとうございました。次に、田中さん、お願いします。

中馬直樹（代理：田中守） 準備委員)

今日も商工会の指導員の中馬の代理で出席しています。田中といます。

前回、前々回の流れで、発言に関しては、赤いところを、前回の内容を踏まえて今一度意見させていただきます。1ページ目の環境保全に関しては、厚みを加えていただきありがとうございました。ブランディングのところでは意見があるのですが、細かい文案というよりも気持ち的な所で、商工会は、営業活動が基本的で、お金が入らないと成り立っていかないので、自然保全とかブランディングに関しては、バランスの話だとは思いますが、負担とかいうイメージはどうしても出ると思いますので、計画の時点では、理想論になるのだが、自然保全をやるという動きが、アイデアとして必要ですけど、事業につながっていくというふうには計画の文言のはしほしに、そういうイメージがあった方が良くと思います。今後、この計画が指針のようになると思うので、何かやる時に、全部やっちゃダメ、これダメというルールづくりよりは、やっていきましょう、そうするとこうつながっていきますよ、だからやりましょうというふうにできるといいのではないかと思います。この時点では、理想論を上げるのは良いのではないかと。

あと、ちょっと細かいのですが、受入体制の2-4のみつしまの運航に関して、1つの項目で挙げていますが、これ、座間味村の内航路ですよね。渡嘉敷としてできれば、ベストですが、行政の予算なので、これに代わる方法、行政の力なのか民間の力なのか、渡嘉敷発の慶良間を廻るもうひと航路を作るということを考えてみてはいかがでしょうか。

最後に気になるところがあります。エコツーリズムについてですが、過去の経緯について、私は、資料しか見ていないので、詳しくは言えませんが、今ここに言葉が同じように出てきているが、この言葉がホアンとしていて、せっかく何年もかけて作った立派な報告書も見ただことがあるので、それを踏まえたうえで計画に入れた方が良くのではないかと。

石川)

ありがとうございました。次に、金城渉さん、お願いします。

金城渉 準備委員)

僕は、計画をいかに実行するか、それを見ているのですが、実行するとなるとほとんど窓口が、観光協会となります。観光協会設立について、商工会長から、商工会が主体となってという発言がありましたが、これまでの小嶺課長とのやり取りでは、行政が主体になってという説明を受けていましたが。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

行政が主体です。

新垣徹 策定委員)

言葉足らずだったが、商工会で、村議会、村長に、観光協会の設立について要請していて、その情報共有していきたいということです。

金城渉 準備委員)

主体は行政ですか。

新垣徹 策定委員)

主体は行政です。

金城渉 準備委員)

主体の違いによって資金の根源も厳しいと思うのですよ。

早急に交えて、実行できる計画、互換性をもって。

もう一点は、稲盛区長からもありましたが、一般の方々、住民に、この計画を伝えなければならぬのですが、本日は、おふた方が、区長として代表で、ここに座られているので、伝える義務が当然あるわけですよ。

稲盛清昭 策定委員)

具体的な手段の話ですね。

こういった計画を、住民の皆が、価値観を共有するようなことは、私が区長だから、私の責任というレベルではなく、そういう理想的に言えば、観光客というのは、渡嘉敷港を下りてから、最後に船に乗る、この島まるごとが観光施設。

要するに、利害の絡む人だけが迎えるのではなく、自然を守ったりするのは、主体は住民。

住民が、我々が討議している理念等を理解して共有して、推進をする主人公は自分たちだという事を考えてもらわなければなりません。そのことを考えて、仕組み作りをしなければなりません。

金城渉 策定委員)

主体は住民なんです。観光業者だけじゃないんです。

トータルしておっしゃる通り。それをいかにみんなに伝えるか、この会議の場を。伝える努力をなさって、なるべく一人でも多くの方に、この会議の内容を伝えていただきたい。

稲盛清昭 策定委員)

実践するつもりです。

金城渉 策定委員)

皆さんは選ばれて、長としてここに座られています、私たちは自分の意志で参加してここに座っています。

住民の皆さんが一人でも多くこの会議に参加できるようにして欲しい。この会議は、オブザーバーとして開放しているので、見られるように透明性をもたしたもので、区長さんの方でおろして提案して、なるべく多くの住民に生の声を聞いてほしいそれを願っています。

石川)

ありがとうございました。次に、金城肇さん、お願いします。

金城肇 準備委員)

この辺りに来ると、皆さんの意見とかぶってしまうものが多々ありますが、3つほどあります。

1番と2番についてですが、国立公園に指定されていますが、指定される前に、エコツーリズム推進法というのがありましたが、成立していない状況に、すごく骨折り損みたいな感じになっているのだが、重要なデータが残っていると思うので、それも生かしながら、現状に合わせて、将来を見据えて、渡嘉敷ならではのものを作って欲しい。資源というもの。JTBの神谷さんから資源という言葉が出て来ましたが、自分たちの会話に出てこなかった所が、自分の弱い所だなあと。

私は、今、この季節、山を歩く時間が多くてビーチに行ったりしているが、保全というか、そういうものでは解決できない何かがあります。渡嘉敷の財産、資源が、どんどん失われていく危険が多くあります。その中で、国立公園の中で、資源を守るものの敵として外来生物植物なのですが、今、外来生物の中で、イノシシの被害について、セミの鳴き声が少なくなったとか、それ以外のものでウミガメの卵も相当イノシシの被害にあっているんじゃないかという事が、私が勉強している中で、いろんな専門家も呼んで分かってきました。そういう被害に対して、はっきり駆除するなり、駆除したものは資源として活用する事ができるかもしれない。そういったものを含めて今どんどん害にあって目減りしていく尊い自然というものを、害獣、外来から、早く守るようにするという事は、1の中のどこに入るかはわかりませんが、入れて欲しい。別項目で、1つのコーナーとして作っても良いと思います。

次に、2ですが、観光客、キャラバン、修学旅行という中で、キャパというものが目減りしていることが、修学旅行の受け入れの現場で確認できます。その対応として、知恵をつけてくれる人がいる中で、先程、水澤次長さんからありましたように、青少年交流の家が絡むことによって、大きなキャパができます。阿波連の分宿型は著しく減っています。そ

れぞれの特徴があると思います。学習できる、レジャー的な海洋を学ぶことができるなど、ビレッジさんも含めて特徴を生かした連携をして、キャパをできるだけ多く取れるようにすべき。キャパがこれだけしか取れない島なんだよと言われないようにしなければならない。旅行社なり、強烈に響く言葉だと思いますので、それをカバーするには、今後、そういうことも必要だと思います。自分たちの方も、交流の家さんに積極的にうかがって、交流の家さんの機能を活用した宿泊、民宿に入ったら民宿の特徴を生かした宿泊で2泊3日を成立させる。皆さんと一緒に、積極的に、商品づくりをしていきたい。

あと一つ、交通体系に入るのか分かりませんが、今フェリーから修学旅行の300なり35名なり貨物のコンテナを利用していますが、荷物をコンテナから運び出すのに、人海戦術で手間暇掛かるので、フォークリフトとかで移動をし、できるだけ生徒さん近くに、そのコンテナを移動できないか。荷物の移動で時間が掛かると、入村式とかセレモニーにかぶってしまい、皆さんがそろわない中でもセレモニーを行うことになったりしている。機械を使った、道具を使ったもので、できるだけ生徒さんの近くまで荷物を移動できたら、もっと充実した入村式ができるのではないかと思います。そのことも、整備ということで入れて欲しい。

石川)

ありがとうございました。それでは吉崎さん、お願いします。

吉崎誠 準備委員)

お疲れ様です。吉崎です。ほとんどの方がいろいろなことを話したので、僕からは言う事はないのですが、今回、5回準備委員会やった中で、決まったというのは基本理念とスローガンだけであって、僕らもこのあと体系図とか基本的な内容を、皆さんからもらった案を、いろいろまた細かく考えていかなくてはと感じています。

個人的に思ったのは、理念のサブのところ、根本的な話ですが、やさしさとあるが、やさしさという言葉、なかなか否定しづらいと思うが、個人的にはやさしさがあるから、この渡嘉敷の自然環境が次につながっていくというわけではないと思います。僕は、渡嘉敷に外から来て、渡嘉敷島の自然が好きで、だから、渡嘉敷のこういう自然の中で、来て楽しんでもらって、もっと島の人にもっと好きになってもらいたい。こんなところもあるのだと知ってもらいたい。そして、この自然を残していきたい。観光で訪れる人だけがこの自然を利用しているわけではなくて、僕ら事業者とか村民全体が自然に対しての消費者であるということを感じなければならないと思います。今、言ったみたいに、やさしさが必ずしもこの自然に対して守っていく、次の世代に繋げていくということではないと感じています。

また、例えばだが、リピーターを増やすことだが、子どもの時に、観光で、渡嘉敷に訪れ、10年後、20年後、子どもを連れて訪れた時、自分が来た時の海が残っているなど、そ

ういう島ができたらいいのではないか、それが、5年、10年、20年、100年とつながっていくのが大事なのではないかと思えます。それを、ここで話し合ってるだけではなくて、村民全体、一人ひとりが、そういう気持ちを持って、島を好きになってもらうような観光振興計画を作っていければと思いますので、皆さん、ご協力よろしくお願いします。

石川)

ありがとうございました。他に追加でありますか。

新里武広 策定委員)

はい。皆さんの話を聞いて出るかなと思っていましたが、出なかったので話をします。

観光客が病気になったりした際の対応について、項目をいれた方が良いのではないかと思います。実際に、観光客の病気は発生しています。折角、渡嘉敷に足を運んだのに、病気になったことで悪い印象を残してもらわないことも必要だと思います。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

皆さんから、いろいろな意見が出ました。体系図は、これから修正をしていかなければならないこともたくさんできました。私の方では、「観光客受け入れ体制」の2-4、先程も意見が出ていましたが、「慶良間諸島をつなぐ航路「みつしま」の充実」だが、「みつしま」という言葉は取った方が良いと思います。先程出ていると同感で、これをもっとグレードアップしていった方が良いのではないかと思います。村の予算を使うのではなく、独立した周遊ルートができるようなルートの構築を目標にできたら良い。同じ慶良間圏域の中で、国立公園もありますし、周遊できるというのは、相当な魅力がある。受け入れ体制の中で強調して良い。

それから、修学旅行の誘致活動をしていて困っているのは、宿泊施設のオーナーの高齢化にともなって、民宿を閉めたりと受け入れがしづらくなっている状況があります。民宿の後継者の課題については、うたわれていない。後継者がいない場合は、新規参加者を促すような記述が必要です。現状のままでは、修学旅行の誘客を頑張ってプロモーションしても、受入れが厳しいところがあるので、ここは検討して欲しい。

それから、財源的な問題があるが、今現在、渡嘉敷村に入る場合、環境協力税で100円いただき、それを財源にいろいろな環境保全をしている。環境協力税が、100円のままが良いのかという議論が出てくるのではないのでしょうか。これだけ、環境保全をしながら活かしていくという観光振興計画を作ろうとしているので、財源について、触れる必要があるのではないかと思います。

これから、もっと、細かなところをチェックしていかなければなりません。今日出た意見をまとめて、後日、皆さんに配布します。そして、意見を求めていくことになります。

あとひとつ、どう読んで良いか分からないという意見がございましたので、理念の文言に、

フリガナをふったらどうでしょうか。フリガナをふった方が、意味が伝わりやすい。

池松来 準備委員)

すみません。ひとつだけ。話の中で、実現可能か、予算とか出てくるのは分かるが、立てた計画以上のものはできないと思っている。慶良間というのは、世界に誇れる、世界から分かる場所なので、計画も、目標も、ルールも、世界一のものを持っていても恥ずかしくないと思っています。自分たちで蓋をするのではなく、この会は、できるだけ、高い目標を持って進んでいけば良いと期待を持っています。

石川)

今、配布しているのは、今後のスケジュールです。

ライヴス黒岩)

お手元には、今後のスケジュールを配布させていただいております。今回、皆さんに議論いただきましたものを事務局で整理します。次回ですが、第6回策定準備委員会を、11月29日(水)に開催をする予定です。次に、12月14(木)日に策定委員会を開催し、素案について議論していただきたいと思います。それを元に、原案を作り、12月下旬から1月上旬の2週間程、パブリックコメントを行います。その後、パブリックコメントを集約し、それを元に、第4回の策定委員を行い、パブリックコメントの確認と検討を行い、最終のものにできればと思います。そして、2月に製本となります。

策定準備委員会は、第6回を11月29日に設定していますが、意見がまとまり切れない場合は、12月14日の策定委員会前に、準備委員会を追加で開催することも考えています。

花咲宏基 準備委員)

今後のスケジュールの中に、パブリックコメントを実施することを説明させていただきました。パブリックコメント実施後には、策定準備委員会が開催する予定がありません。従って、パブリックコメントの計画への反映は、策定委員会が承認することとなります。例えば、本日も皆さんに、計画について大いに議論をいただき、計画作りに励んでいただいておりますが、この計画とパブリックコメントが相反するものが出てきた場合、策定準備委員会の内容を踏まえて、パブリックコメントの反映をお願いすべきと考えますがいかがでしょうか。

また、パブリックコメントで、策定準備委員会、策定委員会で作成したものと相反するものが出て、今回の計画に反映できなかったとした場合、計画書の中に、そのパブリックコメントを記載し、次回の計画作りに反映させることで、パブリックコメントを活かすという方法を取るべきと思うのがいかがでしょうか。

ここは皆さんに決定していただきたい。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

どうでしょうか。パブリックコメントは、どういったコメントが出てくるか想定できないので、盛り込めるコメントと次回に参考とするコメントに分けて考えるということですが、いかがでしょうか。

<異議なし>

花咲宏基 準備委員)

それでは、そういった方法で行いたいと思います。

もう一つ、本日お配りした第4回策定準備委員会議事録ですが、十分に委員会の皆さんの意見の内容を伝えきれていないので、この場で回収させていただきます。ご迷惑をお掛けしました。

追って、正式な議事録を配布させていただきます。準備委員会の皆さんにはメーリングリストで、策定委員会の皆さんは、郵送もしくは手持ちでお渡しします。申し訳ございませんでした。

小嶺哲雄 準備委員会委員長)

皆さん、午後6時から約2時間の長時間、ありがとうございました。貴重な意見がたくさん出ていましたので、持ち帰って、次回の準備委員会までにまとめ上げて、皆さんにお示しできればと思っています。皆さんもご承知の通り、渡嘉敷村の基幹産業は観光しかない。観光の将来に向けての計画を作るのは、相当な作業が必要となってきます。その中で、皆さんのご理解で作りに上げられた計画ができればと思っています。2月までと期間が短くてどこまで詳しく説明できるか分かりませんが、最後にお示したスケジュールに沿ってあとの会議を進めていければと思います。今後ご協力をお願いします。

最後に、大城策定委員会委員長に閉会の挨拶をお願いします。

大城良孝 策定委員会委員長)

皆さん、大変お疲れ様でした。しっかりと、皆さんの意見が出されたのではないかと思います。

足りないところは、準備委員会の皆さんから上がって来たもので、また、お互いが意見を交換する場が必要であれば、また、そういう場を設けて、しっかりと計画を作っていきたいと思います。これからも、ご協力、ご指導をお願いします。

本日は、これで、閉会したいと思います。

ありがとうございました。